# 基本計画第4章

# 2 環境交通

環境保全や公共交通の利用を促進し、環境への負荷が少ない 資源循環型社会\*の構築を進めます。また、犯罪や事故のない安 全なまちづくりを進めます。

基本施策6	ごみ対策	<b>90</b>
基本施策7	環境対策	<b>92</b>
基本施策8	公共交通 ————————————————————————————————————	94
基本施策9	防犯•交通安全 ————	<b>96</b>

# ② 環境交通 基本施策 6 ごみ対策

# 目 指 す 姿

3R(リデュース・リユース・リサイクル)\*の取組みを市民や事業者、 行政が、それぞれの役割を分担し協働\*して推進していくことによっ て、ごみの発生・排出が抑制され、排出されたごみを資源として利用 する資源循環型社会\*が構築されています。また、ごみのポイ捨ても なくなり、快適で清潔な生活環境が確保されています。

比博	現状値	目標値	
指標		平成 25 年	平成 30 年
家庭系ごみの一人1日あたり の排出量(資源を除く)	477g	470g	460g
ごみの総排出量に対する資源 化量の割合(再資源化率)	27.9%	29%	31%
事業系ごみの年間排出量	17,788t	16,900t	16,600t
クリーンアップ事業 <sup>**</sup> 年間参加者数	43,888人	55,000人	65,000 人
ポイ捨てがないきれいなまち だと思う子どもの割合	32.4%	45%	50%

### 今後は、更なるごみ減量の推進や市民のモラル・マナーの向上を目指し、これらの取組みの強化を図る必要があ ります。

ります。

現況・課題

構築を進めてきました。

どが依然としてなくならないのが現状です。

○ 小牧市環境基本計画(平成 15 年度~平成 24 年度)

また、ごみ処理施設については、稼動から24年が経過し、炉の老朽化などから早急に施設更新を行う必要があ

地域環境の美化に取り組むとともに、平成 15 年度からごみの分別方法の細分化を実施するなど資源循環型社会の

また、平成19年9月には、「小牧市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理に関する条例」と「小牧市快適で清

このような状況のもと、ごみの総排出量は平成15年度以降目立った増加もなく、再資源化率の向上、クリーン

アップ事業参加者数の増加などの効果も見られます。しかしながら、分別不良のごみや不法投棄、ポイ捨てごみな

潔なまちづくり条例」を制定し、市民の快適で清潔な環境の確保を目指しています。

○ 小牧市ごみ処理基本計画(平成16年度~平成25年度)

○ 小牧市一般廃棄物処理実施計画(毎年)

○ 小牧市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理に関する条例(平成20年4月施行)

小牧市では収集運搬体制の整備及び充実に努めながら、排出者である市民・事業者に

対してごみの減量化、資源化及び適正処理についての指導・啓発などを行ってきました。 そして、平成9年に「小牧市ポイ捨てによるごみの散乱防止に関する条例」を制定し、

○ 小牧市快適で清潔なまちづくり条例(平成20年4月施行)

○ 小牧岩倉地域循環型社会形成推進地域計画(平成20年度~平成27年度)

## 関連データ

関連計画·条例等

- 家庭系ごみの一人 1 日あたりの排出量 ・ごみ排出量 ・資源回収量
- 再資源化率 ・事業系ごみの年間排出量 ・クリーンアップ事業参加者数

# 基本施策の展開方向



# 3R を推進する (2-1) (5-1)

- 家庭系ごみについては、ごみの排出を抑制するよう普及・啓発するとともに、 家庭用生ごみ処理機の購入費の補助やコンポスト容器・密閉容器の無償貸与の 促進を図ることにより、バイオマスリサイクル\*の推進を図ります。
- 事業系ごみについては、廃棄物減量等計画書の作成を義務付けるなど事業者へ の排出指導を強化し、排出を抑制します。
- リサイクルプラザを活用し、再使用・再資源化を啓発します。
- PTAや子ども会などによる資源回収活動を支援します。
- 常設の資源回収ステーションを増設します。

# 教育・啓発活動の充実を図る (2=3) (4-3) (5-1)

- 市民まつりなどの各種イベントの機会を利用して、ごみの分別方法についての 普及・啓発を図ります。
- ごみの分別方法を通して、環境問題についての出前講座を実施します。
- ごみ問題やリサイクルの現状について、外国籍市民にもわかるように説明した DVD·ビデオの配布や貸し出しに努めるとともに、幼児·児童用の教材を作成・ 配布し、環境教育の推進を図ります。

# 協働の考え方

ごみの減量などに関する意見や提案、取組事例の募 集、懇談会などを通して、市民や事業者のごみ対策に

対する意識を高めるとともに、問題点や先進的な取組例について市民や事 業者、行政が情報共有できるようにします。

市民活動団体や地域コミュニティ\*によるごみ対策のための活動を促進 するため、勉強会やアダプトプログラム\*などの主体的な活動を支援しま

# 地域の環境美化を推進する 22-2 33-3

- ごみの散乱防止重点地域において、市民や事業者と共に積極的な取組みを進 めます。
- アダプトプログラム及びクリーンアップ事業の更なる推進を図ります。

# 処理施設を整備する 6551

- 環境センターの施設老朽化への対応、熱エネルギーの高効率回収・有効利用 の促進及び生活環境の更なる保全を図るため、新しい焼却炉を整備します。
- 浄化槽汚泥などの処理施設の老朽化に対応するため、施設を整備します。

ごみ対策

### 基本施策 7 環境対策 2 環境交通

# 目 指 す

市民一人ひとりが環境を地球規模で考え、身近なところから自主的に 環境保全活動を実施することにより、自然の恵みに満ちた、快適で住み よい生活環境が創造されています。

指標		現状値	目標値	
			平成 25 年	平成 30 年
住宅用太陽光発電システム設置 補助事業における年間総出力		1,287.9 Kw	→ 2,750 Kw	4,000 Kw
公共施設における温室効果ガ ス*年間排出量		22,727.7t	→ 20,564t	20,000t
エコライフチェックシートの実 践によるCO2削減量		0.87kg	→ 0.93kg	1.0kg
さしい取組みを心 がけている市民・	市民	80.4%	82%	85%
	子ども	84.5%	85%	85%

# 基本施策の展開方向

# 地球温暖化対策を推進する



- 小牧市地球温暖化対策地域推進計画を策定し、市民や市民活動団体、企業、行 政が連携して地球温暖化対策を推進します。
- ISO や ESCO 事業\*の導入などにより、公共施設の省エネルギー・省資源化を
- 温室効果ガスの排出を抑制するため、低公害車の導入や普及促進を図るととも に、エコライフチェックシートの実践を推進します。

# 市民の環境意識の高揚を図る



- 小牧市環境基本計画を推進するため、こまき環境市民会議を中心に各種事業を 実施します。
- 広報こまきやホームページなどで、節電、冷暖房の節約など省エネルギー行動 について継続的にPRを行います。
- 環境フェアなどのイベントで、省エネルギー・新エネルギーを体験できる場を 設け、啓発に努めます。
- 市民主体の環境教育を進める上でのリーダーの育成と、市民の環境意識の高揚 を目的に、市民環境講座を実施します。

### 現況・課題

二酸化炭素などの温室効果ガスの増加により、気温上昇、異常気象などが発生すると される「地球温暖化問題」など、地球規模で環境問題が深刻化するなか、環境に対する 問題意識は高くなっています。しかしながら、依然として二酸化炭素などの温室効果ガ

ス排出量の減少も見られず、化石燃料に代わる新エネルギーの導入も進展していません。

このような中、本市では、平成 13 年に ISO14001 \*の認証を取得するとともに、平成 15 年 4 月に施行した「小 牧市環境基本条例 | や、この条例による「環境基本計画 | に基づき、市民や市民活動団体、企業、行政が連携して 環境への取組みを進めてきました。また、平成19年度には「環境基本計画」の見直しを行い、更なる環境施策の 総合的かつ計画的な推進を図ることとしました。

今後は、市民一人ひとりができることから環境問題に取り組んでいくような意識の啓発を図り、市民や市民活動 団体、企業、行政が連携し環境率先運動を推進していくとともに、新エネルギーの利活用を調査・研究することに より、環境に負荷を与えることの少ない生活環境を創造することが必要です。

### 関連計画·条例等

- 小牧市環境基本条例(平成 15 年 4 月施行)
- 小牧市快適で清潔なまちづくり条例(平成20年4月施行)
- 小牧市環境基本計画(平成 15 年度~平成 24 年度)

### 関連データ

住宅用太陽光発電システム設置補助を行った総出力・公共施設における温室効果ガス排出量

### 協働の考え方

イベントや広報こまきなどの啓発を通して、市民や 企業の省エネルギーに対する意識を高めるとともに、

先進的な取組例について市民や市民活動団体、企業、行政が情報共有で きるようにします。

環境教育を進めるリーダーを育成し市民環境講座を行うとともに、新 エネルギーの導入を促進するための支援をします。

# 新エネルギーの利活用を進める

- 市が率先して、公共施設の新設や改修時に新エネルギー設備の導入に努めま す。
- 住宅用太陽光発電システム設置補助事業など、新エネルギー導入の支援を推 進します。

# 環境保全活動を進める





○ 大気・水質などの公害監視や、騒音・振動などの苦情の適正な処理などにより、 快適で衛生的な環境の保全に努めます。

環境対策

### 基本施策 8 公共交通 2 環境交通

# 目 指 す 姿

公共交通機関が充実して利用しやすくなり、自家用車に依存しなくて も生活できる環境が整備され、バス・鉄道の利用者が増加しています。 自家用車の利用を控える市民が増えて環境にやさしい社会となっていま す。

指標	現状値	目標値	
<b>1日</b>		平成 25 年	平成 30 年
名鉄小牧線市内各駅の年間乗 降客数	9,260,554人	9,500,000人 ▶	10,000,000人
こまき巡回バスの年間利用者数	202,270人	330,000人	360,000 人
日頃から公共交通を利用する よう心がけている市民の割合	28.3%	34%	40%

### 現況・課題

上飯田連絡線の開通と都市間高速バスの運行で、市内から名古屋都心部へのアクセス は便利になりました。そして、名鉄小牧線の利用者は上飯田連絡線の開通以降増加して います。今後は、だれもが使いやすい公共交通にするために、駅の周辺整備やバリアフ

リー\*化が必要です。

ピーチライナー\*の廃線や民間バス路線の縮小が進み、市民意向調査によると公共交通に対する市民の満足度が 低くなっており、公共交通の充実に対する重要度が増しています。そのうちこまき巡回バスは、公共交通空白地域 の住民の足の確保を目的に運行していますが、平成19年11月に運行車両を倍増し、運行コースやダイヤの改正 を行ったところ、利用者数が大幅に増加しました。

今後は人の動きの分析などを行い、地域の総合交通計画を策定し、多くの人が利用しやすい公共交通とすること が求められています。

県営名古屋空港は、平成17年以降、コミューター航空\*の利用者が増え続けています。今後も、コミューター 航空やビジネス航空の拠点空港として発展していくことが望まれます。

関連データ

- 名鉄小牧線市内各駅(牛山駅~田県神社前駅)の乗降客数 ・こまき巡回バス利用者数
- 県営名古屋空港利用者数



環境を整える

### 協働の考え方

市民と一緒に公共交通の利用促進を図るための活動 を進めます。

利用者が使いやすいこまき巡回バスとするため、再編などにあたって は利用者と共に考え進めます。また、他の公共交通の事業者にも利便性 向上の取組みを働きかけます。

# 基本施策の展開方向



# 総合交通計画を策定する

○ 地域の総合交通計画を策定し、計画に基づき効率的で効果的な公共交通施策を推 進します。

# 公共交通機関を充実させる

- ○より便利なこまき巡回バスとするため、必要に応じて路線の見直しを行います。
- 公共交通が便利になるよう市民や関係自治体と共に交通事業者などに働きかけます。

# 公共交通の利用を啓発する

公共交通を利用しやすい



○ パークアンドライド\*\*やキスアンドライド\*\*を進め、鉄道の利用促進を図ります。

○ 乗り継ぎや待ち時間の抵抗感をなくし、公共交通利用の利便性を高めます。

○ 鉄道駅のバリアフリー化を進めるなど、移動の円滑化を図ります。

- 公共交通の必要性や重要性などについての啓発を行い、自家用車から公共交通へ の自発的な転換を促します。
- 愛知県や周辺市町と協力して県営名古屋空港の利用促進を図ります。

94

基本施策8

公共交通

防犯

交通安全

# 基本施策 9 防犯・交通安全 2 環境交通

目

市民の防犯意識が高まり、自主的な防犯活動が行われています。地域 住民と警察、行政が連携した防犯対策も充実し、犯罪は減少しています。 また、市民の交通安全意識が高まり、交通マナーも向上し、交通事故は 減少しています。

指標	現状値	目標値	
<b>担</b> 惊		平成 25 年 平成 30 年	
年間犯罪発生件数	3,311件	3,150件 3,000件	
年間交通事故発生件数(人身 事故)	1,429件	1,200件 1,000件	
隣近所への声かけをしている 市民の割合	26.9%	28% 30%	
この1年で通学時に危ないと 思ったことがある子どもの割 合(交通事故や不審者など)	15.1%	14%	

# 基本施策の展開方向



現況・課題

本市では犯罪や交通事故の発生件数が県内平均と比べて高く、市民意向調査において も地域の安全対策や防犯対策に対する市民の満足度は高くありません。

犯罪では空き巣や車上狙いなどの窃盗が多く、犯罪の凶悪化や低年齢化、子どもを巻 き込む犯罪の増加など身近な犯罪への不安は増大し、市民生活を送る上での大きな不安となっています。

このような中、犯罪対策として本市においては犯罪情報を広報こまきやホームページに掲載し、巡回パトロール や街頭活動を実施し、啓発活動を推進するとともに、防犯灯の設置を積極的に進めています。地域においては、自 主パトロール隊が設立され、市民レベルでの防犯意識は高まってきています。

また、交通事故対策として警察及び関係団体と交通安全教育や指導を行うとともに、交通被害者に対する交通事 故相談も行っています。違法駐車や放置自転車等に対しては、警察と連携をとり、駐車違反取締りの巡回強化や放 置自転車等の処分・整理、駐車場利用と放置防止の啓発を行っています。

今後も身近な地域で増加する犯罪やなかなか減らない交通事故を防止するため、地域住民による自主的な防犯活 動や交通安全教育を更に進めるなど、地域住民、警察などとの連携を強化していくことが必要です。

### 関連計画·条例等

○ 小牧市交通安全及び防犯の推進に関する条例(平成15年4月施行)

関連データ

- ・自主パトロール隊団体数
- 駅周辺放置自転車台数 · 交通事故発生件数(人身事故)

# 協働の考え方

防犯や交通安全に関する啓発活動などを通して、市 民の意識を高めるとともに、犯罪などの情報について

市民と行政が共有できるようにします。

地域コミュニティ\*などによる防犯パトロールや交通安全のための活動 を促進するため、研修会を開催するとともに、主体的な活動を支援します。

# 



- 防犯ボランティア団体、地域の自主パトロール隊などを積極的・長期的に支援 して、活動の促進を図ります。
- 地域個々の取組みをつなぎ、広域的なつながりに広めるとともに、出かける時 などの隣近所への声かけ運動を全市的に展開します。
- 行政と警察、関係団体が一体となり、お互いの体制を支援することで強化を図 ります。

# 犯罪を減少させる



- 防犯灯の設置の支援を積極的に進め、地域の安全性と安心感を高めます。
- 犯罪発生状況を把握し、その情報を迅速に市民に提供します。

# 交通安全意識を高める



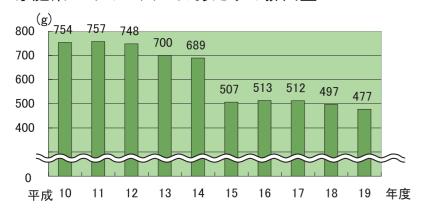
- 警察と連携し、幼児・小学校低学年を中心に、映画や講話による交通安全教 室を実施します。
- 道路管理者や警察と連携して巡回パトロールを強化し、違法駐車防止の啓発
- 駅やバス停付近の放置自転車を処分・整理し、自転車等駐輪場利用と放置防 止を訴えます。

# 関連データ一覧

### 2 環境交通

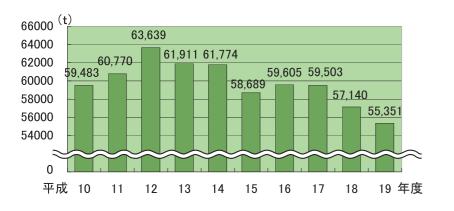
### 基本施策 6 ごみ対策

# ■家庭系ごみの一人1日あたりの排出量



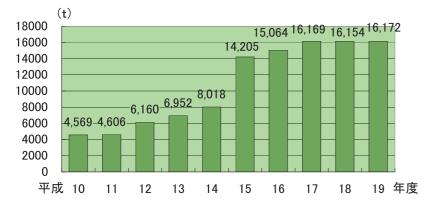
資料 廃棄物対策課(清掃事業概要)

### ■ごみ排出量



資料 廃棄物対策課(清掃事業概要)

# ■資源回収量

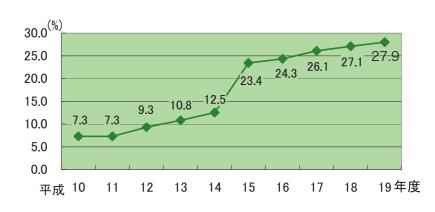


資料 廃棄物対策課(清掃事業概要)

### 2 環境交通

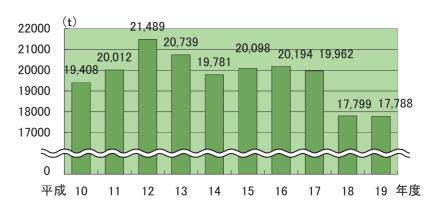
### 基本施策 6 ごみ対策

### ■再資源化率



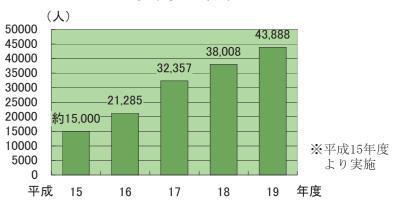
資料 廃棄物対策課(清掃事業概要)

### ■事業系ごみの年間排出量



資料 廃棄物対策課(清掃事業概要)

# ■クリーンアップ事業参加者数



資料 廃棄物対策課

関連デー

タ

分野別計画

4

章

環境交通

分野別計

# 関連データ一覧

### 2 環境交通

# 基本施策 7 環境対策

■住宅用太陽光発電システム設置補助を行った総出力



# ■公共施設における温室効果ガス排出量



### 2 環境交通

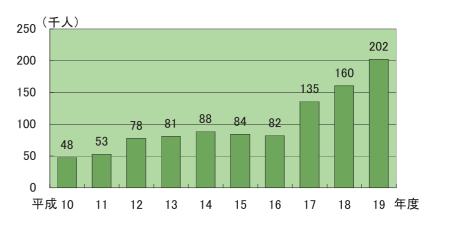
### 基本施策 8 公共交通

■名鉄小牧線市内各駅の乗降客数



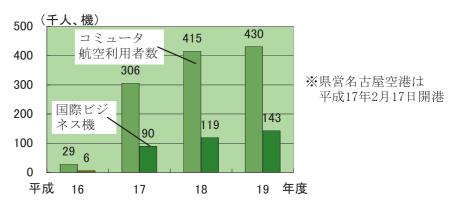
資料 名古屋鉄道㈱

### ■こまき巡回バス利用者数



資料 交通防犯課

# ■県営名古屋空港利用者数



資料 ㈱ジェイ・エア、愛知県航空対策課

4

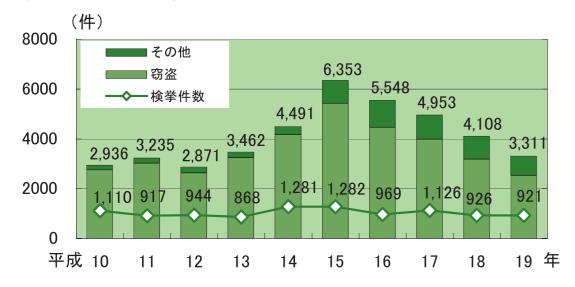
関連データー覧

# 関連データ一覧

### 2 環境交通

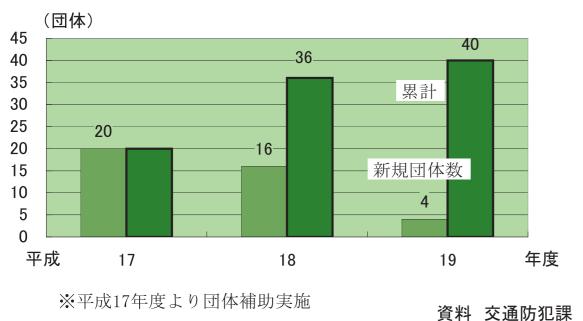
# 基本施策 9 防犯•交通安全

# ■罪種別刑法犯罪件数



資料 小牧警察署

# ■自主パトロール隊団体数



### 2 環境交通

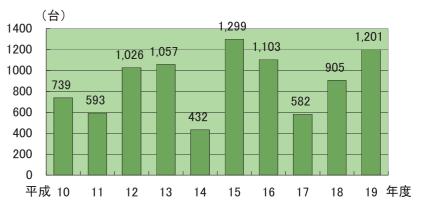
# 基本施策 9 防犯•交通安全

### ■防犯灯設置数



資料 交通防犯課

### ■駅周辺放置自転車台数



資料 交通防犯課

# ■交通事故発生件数(人身事故)



資料 小牧警察署

関連データ